

事業概要

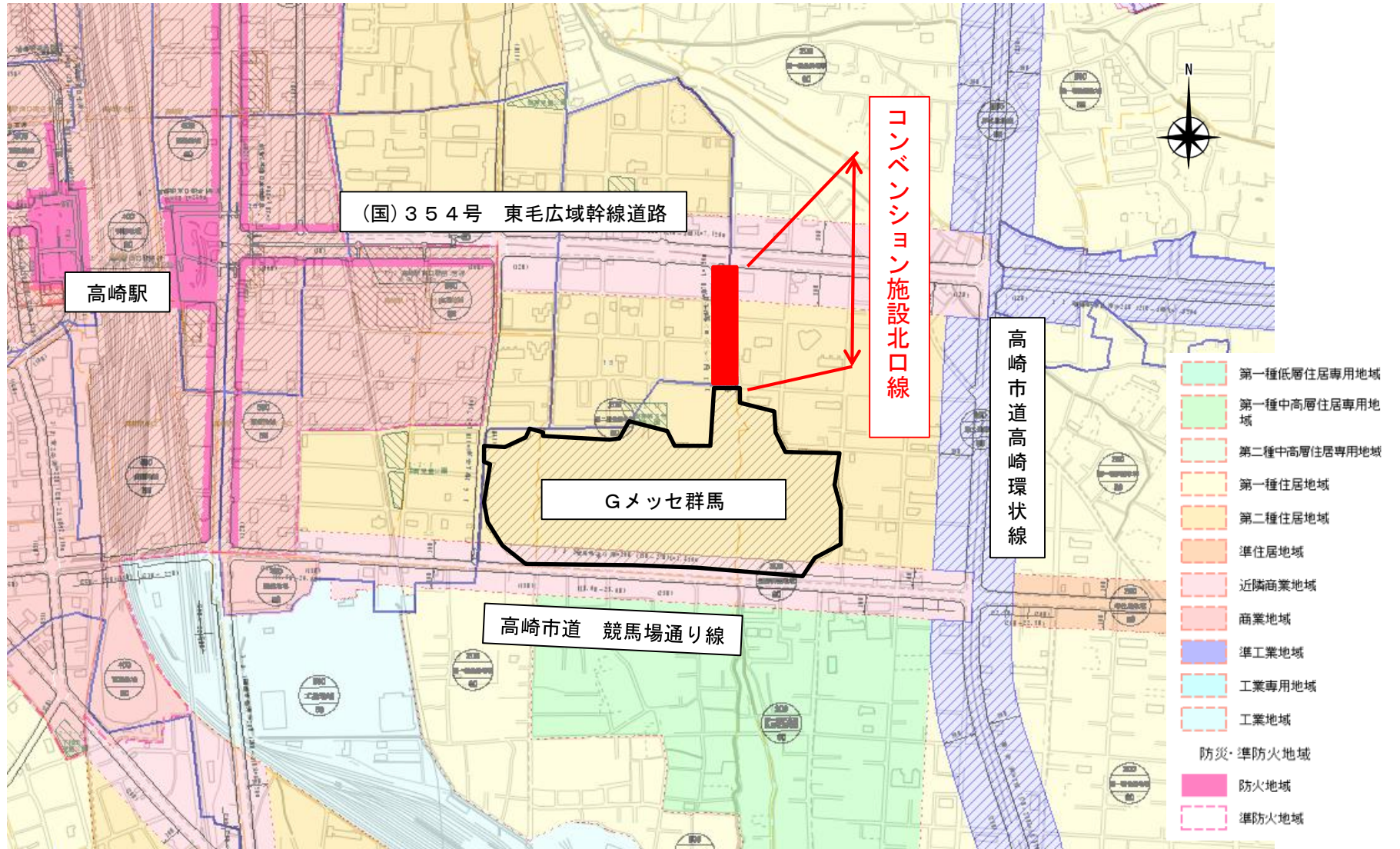
(群馬県：(都)コンベンション施設北口線)

応募No.	6		
事業主体	群馬県	事業箇所	群馬県高崎市岩押町地内
応募者名	群馬県高崎安中振興局 高崎土木事務所		
ふりがな 事業名称	たかさきとしけいかくどうろ 高崎都市計画道路	3・3・84ごう 3・3・84号	こんべんしょんしせつきたぐちせん コンベンション施設北口線
事業概要 (400字以内)	<p>せいびじぎょう 整備事業</p> <p>本事業は、群馬県高崎市において、令和2年6月にオープンしたGメッセ群馬(以下、コンベンション施設)建設に併せて、整備した新設道路(延長276m、幅員27m)である。 本路線はコンベンション施設がオープンし、大規模なイベントが開催される際に、住宅地内の道路が来訪する歩行者や自動車の抜け道とならないようにする必要があり、東毛広域幹線道路から同施設に直接アクセスする道路として整備されたものである。 また、「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」のモデル事業に位置づけられており、設計会社にデザインをまかせることなく、外部の景観デザインの専門家にアドバイスを得ながら、「群馬らしさ」と「コンベンション施設との一体感」を考えた歩道舗装など、職員自らが景観に配慮した設計を実践した。</p>		
事業規模	事業延長(km)	約0.3km	
	幅員(m)	約27.0m	
	事業期間(和暦)	平成27年度～令和元年度	
	事業費(億円)	約10億円	
受賞歴	有・無		
URL			

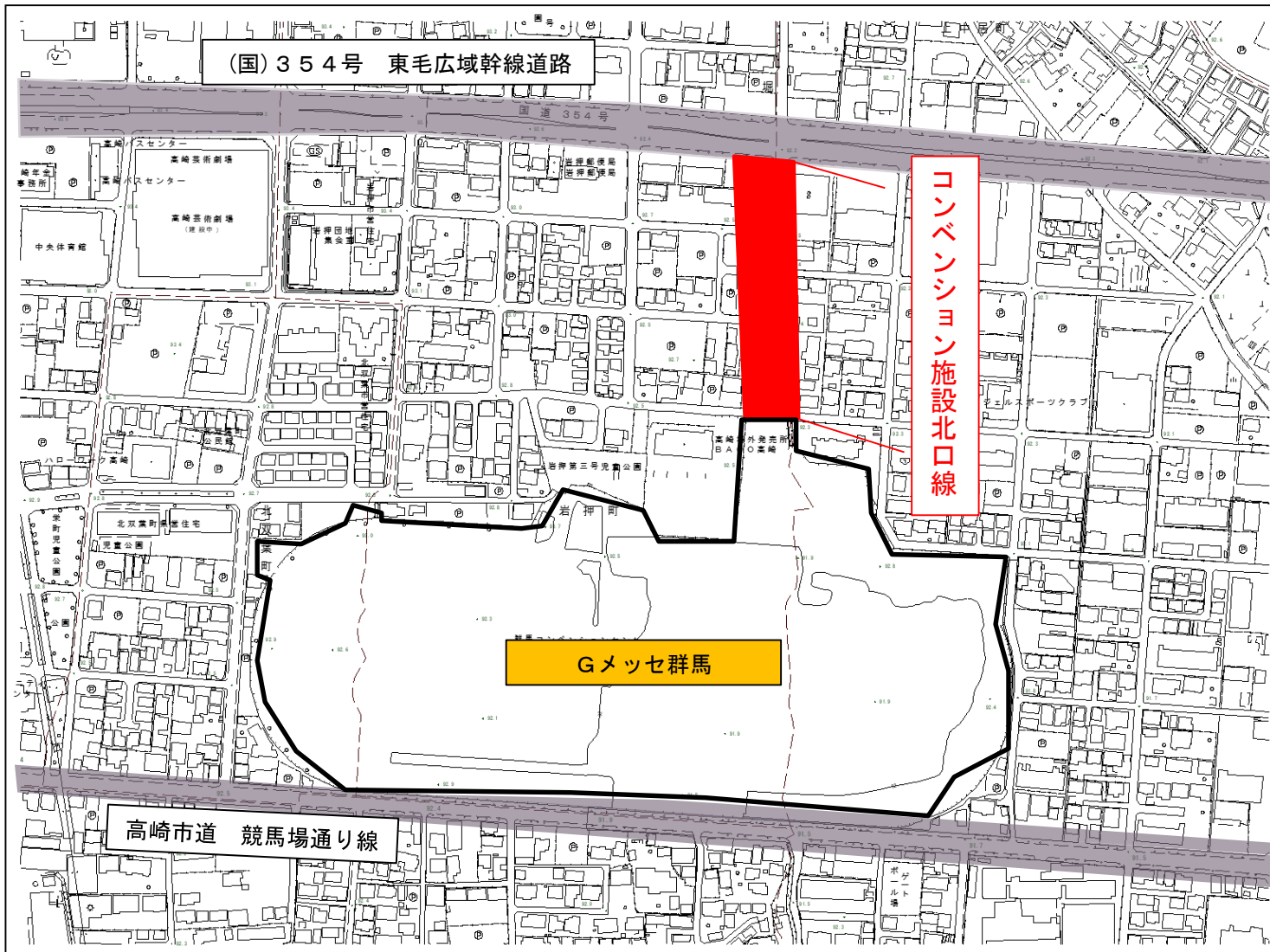
事業位置図



都市計画図(用途地域図)



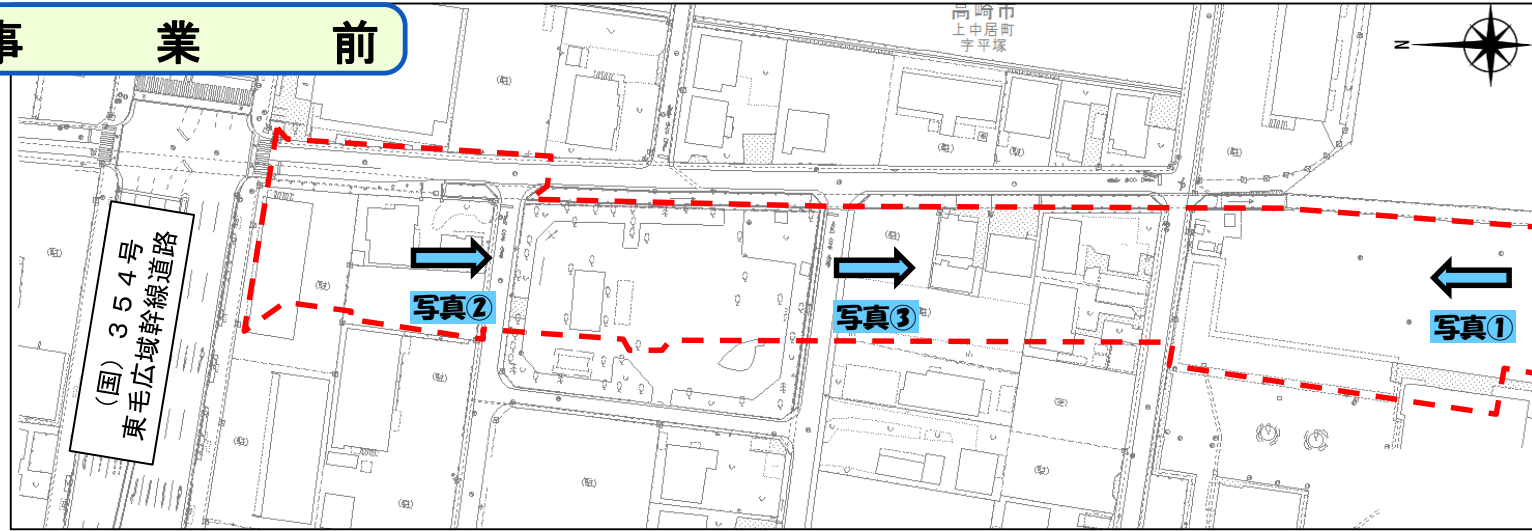
路線全体の進捗状況



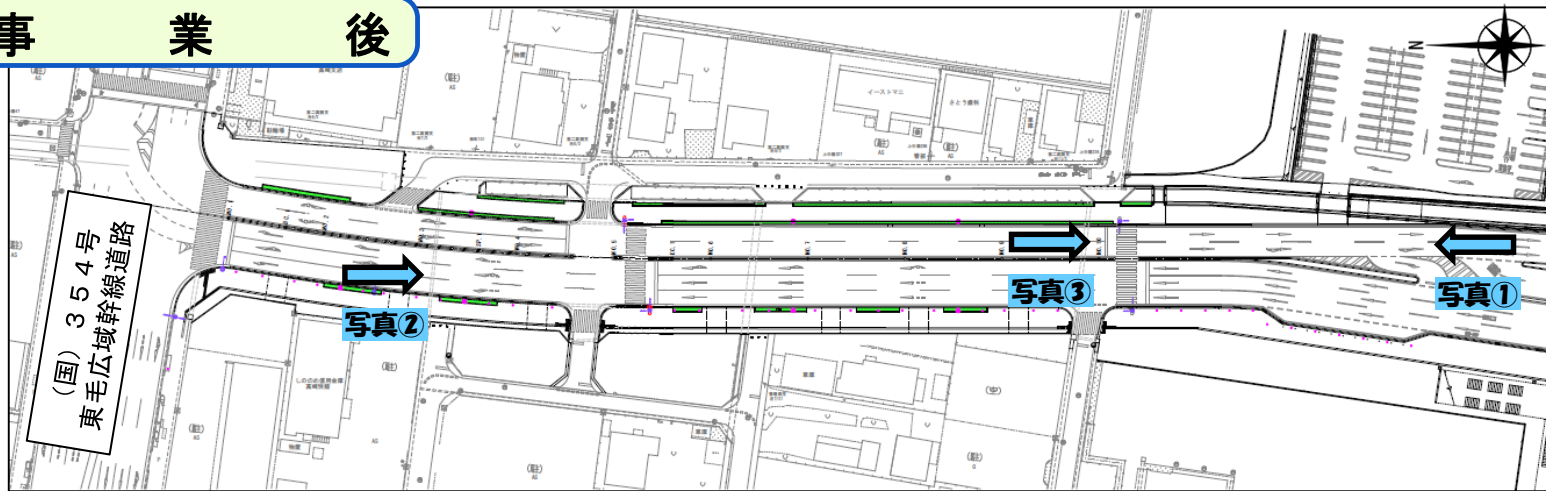
凡例	
	今回応募区間
	施工済区間(完成区間)
	未施工区間(調査・計画区間)
	既設道路

平面図

事業前

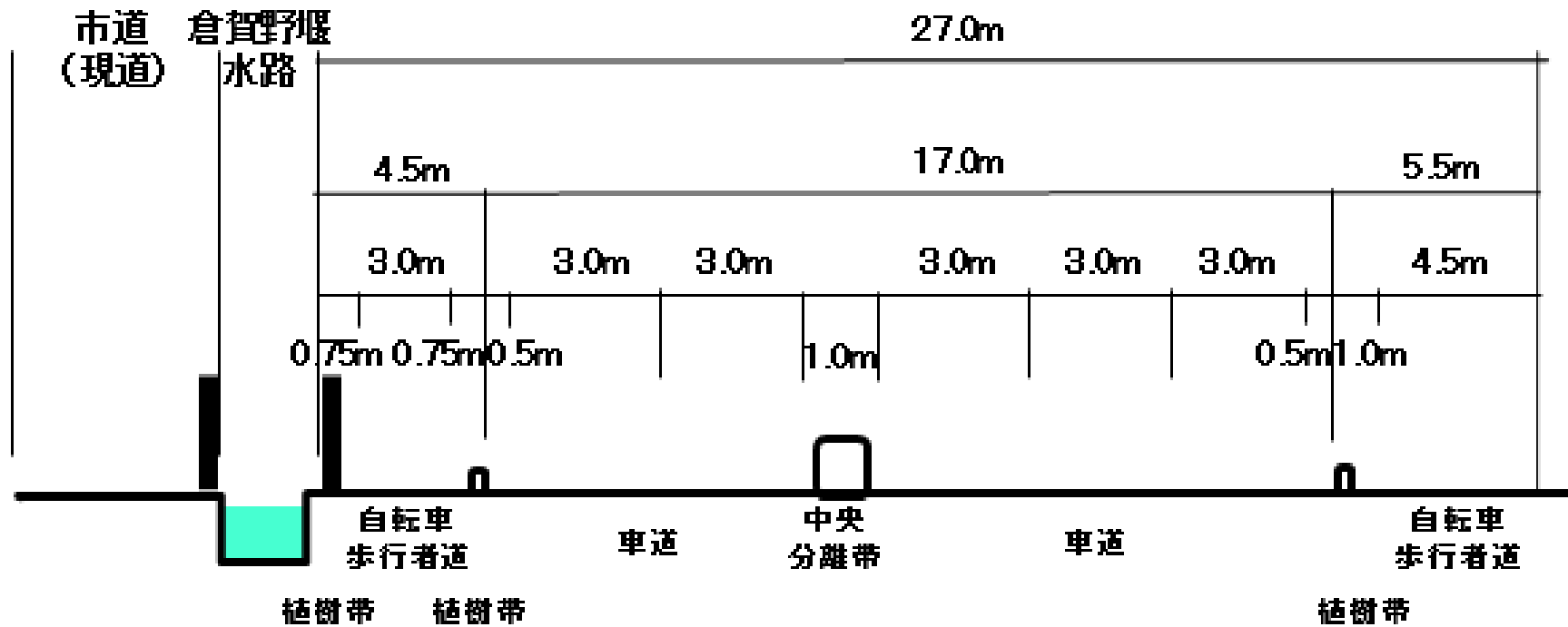


事業後



横断図

事業後



事業前写真



事業後写真

(群馬県：(都)コンベンション施設北口線)



事業効果アピール資料

□ コンベンション施設との連携

令和2年6月にオープンした、Gメッセ群馬へのメインアクセス道路として、施設との一体感を考慮したデザインとした。

コロナ禍の中、Gメッセ群馬は、県民の新型コロナウイルスのワクチン接種加速化のための「県央ワクチン接種センター」として、国内最大規模の1日最大1万人接種を目指し運用され、そのアクセス道路として効果を発揮した。



事業効果アピール資料

□整備効果

Gメッセ群馬へのメインアクセス道路として効果を発揮した。

- ・安全な交通の確保や周辺住宅地への一般車両の通り抜け防止
- ・施設との一体感や地域の景観に配慮した公共空間の創出



(都) コンベンション施設北口線 (Gメッセ群馬側から)



周辺住宅地への通り抜け防止対策



群馬の生糸産業をイメージした舗装ブロックとストリートファニチャ



苦労や工夫等アピール資料

○本事業は「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業」のモデル事業として、群馬県職員の公共空間デザインの理解を深めるため、職員自らがデザインを実践する新しい試みに挑戦した。

□景観デザインの実践概要

①住民ニーズの把握

- ・地元説明会の開催、街づくり通信の発行、アンケート実施などを通じて、地元からの要望を把握した。コンベンション施設への玄関口として求められる機能と地元からの要望が相反する内容もあった。

地元からの要望（アンケート、用地交渉など）

- 高木は避けてくれ（落葉が嫌だ）
- たまり場はつくるな（静かな生活を守ってくれ）
- 背の高い照明は嫌だ（夜まぶしいのは困る）

相反!?

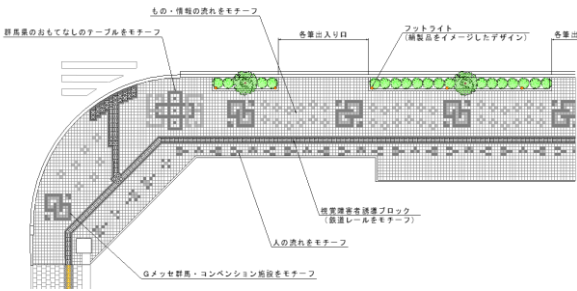
コンベンション施設への玄関口として

- 高木は必要（空間に潤い、緑陰）
- たまり場は必要（来場者の待ち合わせ・休憩場所）
- 夜の景観も重要（照明で夜の景観づくり）

②行政職員によるデザイン提案とアドバイザーからの助言、ワークショップ

- ・地元からの要望を踏まえた基本デザインを作成し、これを道路全体に展開することを想定してデザイン提案。
- ・行政職員のデザイン提案に対するアドバイザーからの助言を踏まえ、アドバイザーと行政職員とでワークショップ形式により「道路の使われ方分析」と「周辺の状況整理」を実施。
- ・地元要望や地域利用者を尊重しつつ広域からの来訪者をもてなすエントランスとしての設えが可能となった。

行政職員が提案した基本デザイン
入口部（東毛広野通交差点）



【アドバイザーからの助言】

- ①デザイン検討の前提として道路を平面ではなく生活空間として捉え、住民や来訪者がどのように使うかを十分考慮する。
- ②その上で道路空間の中でどこが重要かを考えてデザインする。
- ③コンベンション施設との一体性を考える。
- ④素材やディテールの経年変化を考える

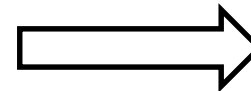


ワークショップ

③行政職員によるデザインコンセプト提案

- ・ワークショップの結果とコンベンション施設のデザインコンセプトを踏まえて3案を提案し、内部協議等を経て、「A案:群馬の絹糸産業を感じる案」を採用。

- A案:群馬の絹糸産業を感じる案
- B案:群馬の自然・四季を味わう案
- C案:円が示す群馬の産業



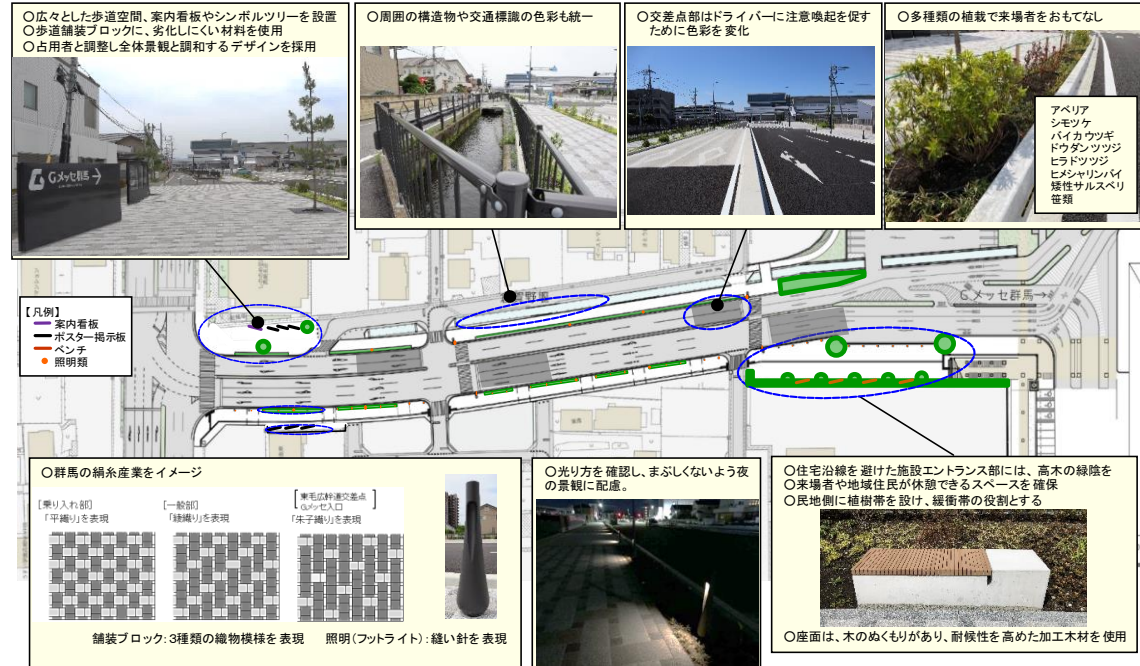
苦労や工夫等アピール資料

④基本設計への反映

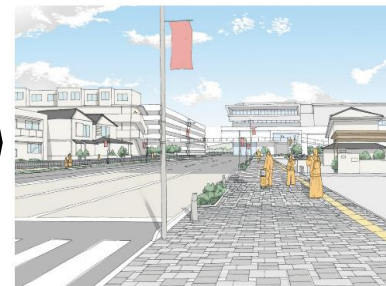
- ・デザインコンセプトや地元意見などを反映した、基本設計を作成。
 - ・施設のエントランスとして必要な要素の盛り込み
 - ・起終点部にオープンスペースを確保
 - ・意匠性の高い洗出しブロックの歩道舗装
 - ・高木は宅地と隣接しないオープンスペースに
 - ・連続照明の光源は低い位置に
 - ・交差点の注意喚起として半たわみ舗装に

⑤成果

- ・行政職員自らが公共事業における基本設計のデザイン検討から施工時のデザイン監理まで一貫して実践した。
- ・利用者目線で「道路の使い方分析」と「周辺の状況整理」を行うことで、地元アンケート結果等で判明した地元ニーズと景観デザインの融合を実現した。
- ・コンベンション施設と連続性を保ったデザインコンセプトにより県の新たな顔となる質の高い道路デザインを実現した。
- ・「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」のモデル事業に位置づけられており、県内の他の公共事業における景観デザイン実践の事業モデルとして波及効果が期待される。



デザイン設計前



デザイン設計後



完成後

受賞歴・報道資料

- ・土木学会 第16回景観・デザイン研究発表会 2020年12月 優秀講演賞 (A・B部門)
「持続可能な公共空間の質的向上に向けた行政職員のデザイン実践
—群馬県コンベンション施設周辺道路整備事業を対象として—」